

## 立教女学院の教育の豊かさ

### 1. 立教女学院が大切にしている言葉

「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力とを身につけて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けられるように」

(聖書 フィリピの信徒への手紙 1: 9~10)

私たちは、各々が多種多様な価値観を持ち暮らしています。そして、実に雑多な価値観が蠢く社会の中で私たちは生き、自らの歩む道を定めて行かなくてはなりません。この雑然紛然とした環境は可能性が大きくなったというのではなく、可能性がまさに多くなっただけなのです。生き抜く知恵と真実なものを見抜く力、すなわち決断力と、人々を心より愛する心の豊かさが必要な時代となっているのではないのでしょうか。有名なR. ニーバーの祈りがあります。

神よ、

変えることのできるものについて、

それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、

それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、

変えることのできるものと、変えることのできないものとを、

識別する知恵を与えたまえ。

### 2. キリスト教教育が描くキャリア・デザイン

Carpe Diem(seize the day)という言葉があります。今という時をつかむということです。私たちはキリスト教教育の時の概念を、過去→現在→未来(未だ来ない)ではなく、将来(将来に来る)→現在→過去とします。生徒たちを曖昧模糊とした未来に放り出すのではなく、生徒一人一人に目掛けてやって来る、神さまからの新しい時を掴み取る手の力を養う教育をいたします。OECDが高い成果を生み出す行動特性として次の3つのことの養成を挙げています。①個人と社会との相互関係の構築 ②自己と他者との相互関係の構築 ③個人の自律性と主体性の構築。自分がどのような職業に就くかを決める前に、自分と他者との真摯に向き合い相互に理解を深め、また自分と社会の関わり方を深く思い巡らし、神さまからの呼び掛け(Beruf)に応える力を持つ人間に育てて欲しいと願っています。